

財団法人 8020 推進財団 平成 20 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録	
1. 事業名：	フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動
2. 申請者名：	社団法人富岡甘楽歯科医師会
3. 実施組織：	富岡甘楽歯科医師会、富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、下仁田町健康づくり推進協議会、下仁田町保健推進員協議会、下仁田町フロリデーション推進会議、住民組織等、日本口腔衛生学会(学術支援)
4. 事業の概要：	<p>下仁田町では、平成 15 年度から 18 年度まで 4 年連続で、(財)8020 推進財団から歯科保健活動助成の交付を受け、関係諸団体が連携しフロリデーションの実施をめざした啓発活動を継続してきた。平成 16 年度には日本口腔衛生学会監修のリーフレット「フロリデーション」、平成 17 年度には厚生労働省科学研究班の技術支援を受けた「フロリデーションモデル装置」が完成した。</p> <p>平成 19 年度からは、富岡甘楽歯科医師会が主体になり、2 年連続で歯科保健活動助成の交付を受け、下仁田町での活動を継続しながら、管内他市町村の住民を対象にした啓発活動にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>今年度は下記のとおり啓発事業を実施した。今後の啓発活動により、住民から幅広い支持が得られれば、議会の承認を得てフロリデーションを実施できる環境が整うと考えている。フロリデーションは、最も優れた公衆衛生的なむし歯予防対策で、各種フッ化物利用の原点である。実施されれば、子供から高齢者まで給水地域で生活する住民すべてが、生涯を通じてむし歯予防の恩恵を享受できる。</p>
5. 事業の内容：	<p>(1) 歯科保健講演会「フッ化物を利用した歯の健康づくり」を開催 講師安藤雄一先生(国立保健医療科学院)</p> <p>(2) 歯の衛生週間行事「歯の健康フェア 2008」(第 23 回)を開催 今年度は「知っていますか? フロリデーション」がテーマ。会場でアンケートを実施。</p> <p>(3) 「歯の健康フェア 2008」のチラシ(約 8,000 枚配布)を活用したフロリデーションについての情報提供</p> <p>(4) フロリデーション啓発ポスター「知っていますか? フロリデーション」の掲示(前年度事業からの継続)</p> <p>(5) チラシ「知っていますか? フロリデーション」の配布(前年度事業からの継続)</p> <p>(6) クリアファイル「知っていますか? フロリデーション」の購入と利用</p> <p>(7) 「甘楽富岡学校歯科保健だより No.13」(発行 10,000)でオーストラリアのフロリデーションについて紹介</p> <p>(8) リーフレット「知っていますか? フロリデーション」の制作と配布(40,000 枚印刷し全世帯に配布) (発行：富岡甘楽歯科医師会 監修：厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」)</p> <p>(9) フロリデーション問答集(久米島バージョン)の購入と配布</p> <p>(10) 大分県歯科医師会発行のパンフレット「フッ素で むし歯ゼロをめざせ!」の購入と配布</p> <p>(11) 下仁田町保健センターに設置されたフロリデーションモデル装置の活用(フロリデーション水の試飲等)</p> <p>(12) 下仁田町保健センター主体の活動(保健推進員の研修会、講演会の開催、啓発用 DVD の利用等)</p> <p>(13) 群馬県歯科保健大会で発表 演題「フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動」</p> <p>(14) 群馬県小児保健会で発表 演題「富岡甘楽地区の乳歯のむし歯予防対策」</p> <p>(15) 富岡市議会議員を対象にフッ化物を利用したむし歯予防についての勉強会の開催</p> <p>(16) 富岡市教育委員会においてフッ化物を利用したむし歯予防についての説明会を開催</p> <p>(17) 厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」制作の DVD を活用した啓発</p> <p>(18) フッ化物洗口説明会を利用したフロリデーションについての情報提供</p> <p>(19) 富岡保健福祉事務所歯科保健連絡調整会議編集の啓発資料を管内全小学校へ配布</p>
6. 実施後の評価(今後の課題)：	<p>歯の健康フェアの会場において実施したアンケート調査の結果からも分かるが、歯科保健に関心のある意識の高い住民は、フロリデーションについて理解し実施についても支持している人が多い。また、初めてフロリデーションを知った住民は、好意的な反応を示す場合が多く、正確な情報を提供することは非常に重要だと思う。フロリデーションについてある程度理解している住民は、下仁田町だけでなく富岡甘楽地区全域で毎年確実に増加している。しかし、無関心な住民が多く、健康問題に興味を示さない人に対する啓発は、今後も引き続き大きな課題である。</p>

